

3

One morning in winter, the forest was very white from layers of snow that lied thick on the ground.

A fox who was hungry came out from a burrow.

“Uhhhhh, I am so hungry. Is there anything I can eat?”

The fox climbed down the mountain and arrived near the village to suddenly spot an otter.

The otter was diving in a pond catching fish very skillfully.



5

The fox spoke to the otter,

“Hey Otter, I am so hungry that I can barely walk properly. Would you please share some fish with me?”

The otter was shocked.

Because he had been pranked and fooled by the fox many times before, but never had been asked for help.

Then, the otter schemed a plan of revenge against the fox for what he had done to the otter.

“Right... I see. Well then, let's eat some fish together.”

The otter shared some of his fish to the fox.



ある、ふゆの ひの あさ。

もりは、ふりつもった ゆきで まっしろです。

おなかを すかせた いっぴきの きつねが、
すあなから でてきました。

「あ～ おなかすいた。

なにか たべられるものが ないかな・・・」

たべものを さがして、さとの ちかくまで
おりてみると、きつねは そこで、
かわうそを 見つけました。

かわうそは いけに もぐっては、
じょうずに さかなを とっていました。



きつねは、かわうそに こえを かけました。

「なあなあ、かわうそどん。おいら おなかがへって、
もう ふらふらなんだ。おいらに、さかなを
すこしだけ わけてくれねえかな」

かわうそは おどろきました。

いままで きつねに いたずらされたり、
だまされたり したことは あっても、
おねがい されたことは、
いちども なかったからです。

そこで かわうそは、きつねに ひごろの しかえしを
してやろうと かんがえました。

「・・・そうか。わかった。

ほら きつねくん、いっしょに たべよう」

かわうそは、きつねに さかなを わけてあげました。

